# スノーフレーク

# 概要

和名(科名)	スノーフレーク、スズランズイセン、オオマツユキソウ (ヒガンバナ科)
英名	Summer Snowflake, Loddon lily
特徴	春咲きの球根植物。鱗茎は直径 2.5~4 cm の卵形で、2 月頃、鞘葉に包まれた 4~5 枚の葉を出し、幅 1.5 cm、長さ 30~40 cm のベルト形に伸長、5 月下旬には枯れて休眠に入る。4 月上旬、30~40 cm の花茎の先に 1~4 個の花をつける。花は直径 1.5 cm の釣鐘状で、花被片は白色、先端に緑色の斑点がある。花がスズランに似て、草姿がスイセンに似るのでスズランズイセンという和名がついた。
有毒成分	アルカロイド(リコリン、ガランタミン、タゼチンなど)
分布	ヨーロッパ中南部原産で、北米東部などでは野生化。耐寒性があって露地栽培が可能なため、日本でも花壇や鉢植えの園芸植物として広く栽培される。

# 毒性

部位	葉	鱗茎
毒性	中	中
食用の可否	×	×

#### (写真)



スノーフレークの群生



花はスズランに似る

# 詳細

#### 1 特徴

一般名	スノーフレーク、スズランズイセン、オオマツユキソウ
英名	Summer Snowflake, Loddon lily
学名	Leucojum aestivum L.
分類	ユリ目 Liliales、ヒガンバナ科 Amaryllidaceae、スノーフレーク属 <i>Leucojum</i>
	(APG 分類体系ではキジカクシ目、ヒガンバナ科、スノーフレーク属)
生育地	ヨーロッパ中南部原産で、北米東部などでは野生化。耐寒性があって露地栽培が
	可能なため、日本でも花壇や鉢植えの園芸植物として広く栽培される。
形態	春咲きの球根植物。鱗茎は直径 2.5~4 cm の卵形で、2 月頃、鞘葉に包まれた 4
	~5 枚の葉を出し、幅 1.5 cm、長さ 30~40 cm のベルト形に伸長、5 月下旬には
	枯れて休眠に入る。4月上旬、30~40 cm の花茎の先に 1~4 個の花をつける。花
	は直径 1.5 cm の釣鐘状で、花被片は白色、先端に緑色の斑点がある。花がスズ
	ランに似て、草姿がスイセンに似るのでスズランズイセンという和名がついた。



スノーフレークの群生



市販のニラ(左3本)と スノーフレーク(右)の比較

#### 2 毒性成分情報

毒性成分	リコリン lycorine、ガランタミン galanthamine、タゼチン tazettine などのアルカロイド(スイセンと同様)
	OH HO,,,, H H N CH <sub>3</sub>
	lycorine galanthamine
	OCH <sub>3</sub>
	H, CH <sub>3</sub>
	O OH
	tazettine
中毒症状	吐き気、嘔吐、頭痛など
発病時期	食後30分以内に発症。
発生事例	スノーフレークによる食中毒は、2014年初めて報告された。
	2014年4月、愛知県日進市の家族3人が、自宅近くの空き地に生えていたスノー
	フレークを採って食べ、軽い嘔吐などの食中毒症状を発症したが、一日以内に回
	復した。3人は70代の夫婦と40代の息子で、「茎がニラに似ていた。焼きそばに 混ぜて食べた。」と話したという。
中毒対策	葉がニラに似ているため、花が咲いていないと間違える例が多い。家庭菜園と花
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	壇を区別し、家庭菜園にはスノーフレークやスイセンなどを植えないようにす
	る。臭いでニラとの区別は容易。
毒性成分の分析 法	リコリン類アルカロイドの分析は、スイセンに準ずる。

#### 3 その他の参考になる情報

間違えやすい植	葉の形状はニラによく似ているが、ニラよりも幅広い。ニラは強烈なニラ臭があ
物	るが、スノーフレークは青臭い不快臭があるので、臭いを嗅げば見分けることは
	容易。